

# とらうべ通信

2015. 10月号  
No.77

発行所：(一社)香川県助産師会 高松市春日町 1176  
発行責任者：眞鍋 由紀子 ☎：087-844-4131 FAX：087-844-4130

## 会長便り

会長：眞鍋 由紀子

我が家の野菜畑の片隅に友達から株分けしてもらった白い彼岸花が咲きました。赤い花とはまた趣が違った感じで、風に揺られていました。朝夕の涼しい心地よさが何時までも続けば楽なのと思う今日この頃ですが、会員の皆様にはお元気でそれぞれの場において香川の母子のために日夜努力をされている事に感謝いたします。穏やかな香川では想像もつかないような自然災害が日夜テレビの画面から流れてきます。それらを目にするたびに、「香川の災害対策は」と考えさせられるのですが、なかなか進まないのが現状です。夫々の地域で活動している会員の皆様が、その地域の周産期周辺の事柄の相談者として、動いて下さるよう各自治体に伝えていきたいと思えます。自治体との話し合いが必要になってくるかと思えますが、その時は助産師として何が出来るかという事について検討していけたらと考えています。よろしくご協力下さいますようお願いいたします。



さて、香川県助産師会ではクリニカルラダーⅢの申請を一人でも多くの会員の皆様にして頂きたく、研修を重ねてまいりました。ラダー申請の期限は8月31日でしたので多くの皆様が申請を出されたことと思います。続いて認定のための試験がありますので、それに向けて、産婦人科ガイドライン・助産業務ガイドライン等を材料に、学生時代を思い出して勉強をしていきたいものです。皆さんポチポチ頑張ってください。

そして、香川県助産師会の大きい行事である「いいお産の日記念行事」がいよいよ近づいてきました。高松会場・丸亀会場共に実行委員会で色々と協議してきました。当日参加して下さる方々に楽しんで参加して頂き、行って良かったと思ってもらえるように、準備を整えてお待ちしたいと考えています。多くの方々のご協力をお願いいたします。では、いいお産の日にお会いしましょう。



### 助産師教育における ～助産学実習～

県内唯一の助産師  
養成施設です！

香川県立保健医療大学助産学専攻科 竹内美由紀



香川県立保健医療大学では、大学卒業後1年課程の専攻科として、助産師教育を実施しています。定員は10名で、女性の主体性を尊重し、安全で質の高い助産ケアができ、母子保健医療チームの一員として地域に貢献できる助産師の育成をめざしています。すべての実習が県内で完結できるという恵まれた学習環境は、

県内の助産師皆様のご協力のおかげと感謝しております。

助産師に期待される役割や修得すべき能力は拡大しています。助産師教育は、その専門職業人としての基礎を学び、未来の助産師を育てる場所です。学生達は、実践能力の獲得に向け日々努力していますが、努力はすぐに成果としては見えにくいものです。

私達、先輩助産師は、後輩の成長を信じ期待して待つ。助産師人生を歩む先輩としてのロールモデルを見せる。その姿から「助産師っていいなあ」と思わせることが重要なのではないのでしょうか。実習での、先輩助産師さんからの「進歩したね」の成長への賞賛の言葉や、受け持ち産婦さんからの「ずっとそばにいてくれてありがとう」の感謝の言葉、赤ちゃんの元気な声に励まされ、癒されながら、母子の生命を守り、信頼される助産師になるため、初めて経験する厳しい実習に立ち向かっています。

皆様！今後とも、応援よろしくをお願いいたします。

## 報告

### 第 11 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会

サンフラワーマタニティークリニック 下津 郁代

開催初日は、市民公開講座で大住 力氏（難病の子供とその家族へ夢を代表理事）「子育てと家族を支える原点を見つめる」というテーマで、難病の子供と家族支援事業を通して得た貴重な経験をお話し下さり大変感動しました。このお話の内容は、今年の 12 月には映画化されるということでした。続いて、河合 蘭氏（出産ジャーナリスト）「これからの日本で子供を生むということ」というテーマで中・高校生を対象に日本のお産の現状を解りやすく伝えていました。2 日目は和太鼓で今大会を祝い、次にフラッグセレモニーとしてアジア 19 カ国の助産師代表（アフガン、オーストラリア、バングラディッシュ、カンボジア、中国、香港、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、モンゴル、ニュージーランド、パキスタン、パプアニューギニア、フィリピン、スリランカ、台湾、ベトナム、日本）が国旗を持って民族衣装で登壇され盛り上がりました。日本助産師会：岡本喜代子会長が開会宣言後、秋篠宮妃殿下、厚生労働大臣、産婦人科医科会長、横浜市長よりお言葉をいただきました。日本看護協会：坂本すが会長の講演は、「すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを」というテーマでアジアの国や日本での出産の現状や政策について、すべての妊産婦に安心で安全なケアを提供できる助産実践をしていくこと、日本の助産実践能力の向上と質対策としてのラダーⅢアドバンス助産師についての説明がありました。各国の研究発表やポスター掲示は、興味深い内容で勉強になり、展示ブースは、日本の助産実践に使用されていたトラウベや往診カバンがあり助産師の歴史を感じました。最終日の「日本の助産師の技を受け継ごう」というテーマでは、開業助産師の技を学ぶよい機会となりました。ラダーⅢに活用できる研修としては、「子宮収縮剤を用いた陣痛誘発と陣痛促進の注意点」日本医科大学：中井章人先生の講義や助産実践能力習熟段階（クリニカルラダーの活用）に参加しました。

この学会は、同じ志を持つアジア太平洋地域から 3 日間で 3,206 人の助産師が集まり、知識や技術を高めあうことができた素晴らしい助産の学術集会でした。国によって助産実践を取り巻く状況は様々ですが、日本においては、出産年齢の高年齢化に伴うハイリスクへの移行を早期に発見し、自信と誇りをもって援助をしていくことが大切であり自ら学ぶことやエビデンスで助産実践を語る研究を重視していくことを再認識しました。「すべての妊産婦と赤ちゃんに助産師のケアを」を合言葉に、助産師としてブラッシュアップして、今後とも妊産婦や家族に信頼される支援を継続していきたいと思えます。

## 研修会報告

### 研修「乳幼児の発達障害」を受講して

報告：藤本智代

8 月 2 日 日曜日の午前中、えないメンタルクリニック 繪内利啓先生より「乳幼児の発達障害」について講義を受けました。研修会場のぼっこ助産院 1 階ホールは満席状態で、日頃活動している中での身近なテーマだけに疑問や参考にできることはないかなど、皆さん真剣に先生の講義に耳を傾けていました。

まず、発達障害者支援法における「発達障害」の定義とは、「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」とある。気になる症状を指して親の育て方云々と偏見を持たれがちだが、未熟な脳は置かれ



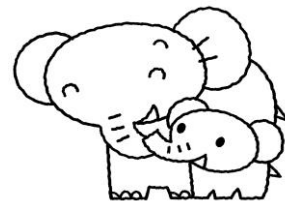
た環境に関わらず未熟な行動を引き起こすということであって、母親によって作られたものではない、脳の基礎的な未熟さを伸ばしていくことが必要であると学びました。療育の11の基本姿勢を具体例で説明して頂き、特に「ジョイントアテンション」と「背向法」が重要で、指さし・手渡しをしながら視線・注意の共有につなげマネを教えていく、コミュニケーションのラリーにもっていくことがポイントであること、そして一つの行動を分析し、一番簡単な「最後の行動ができた」ということから難度を上げていき「必ず成功する」という体験を積み重ねていくことが大切であると学びました。

今回の研修では、気になる症状と療育について具体例で教えていただき、あっという間の3時間でした。療育の基本姿勢を常に念頭におき仕事に関わっていこうと思います。ありがとうございました。

## 施設紹介

### 四国子どもとおとなの医療センターです！

当院のMFICUは平成15年12月に国立病院としては全国で初めて、総合周産期母子医療センターとして正式に認可されました。平成25年5月には旧善通寺病院と統合し新病院となりました。センター内の母体胎児集中治療室（通称MFICU）は、多胎妊娠、切迫流産、PIH、胎児や胎盤位置異常などハイリスクの方を対象に、NICU・GCUとも24時間体制で搬送を受け入れ、緊急帝王切開にも対応し、救命に努めています。



産科医師、助産師、看護師、NICU専門医師、麻酔科医師、状況によって他科の医師達の協力のもと、質の高い医療や看護ケアの提供を行い、対象範囲は救急車やヘリコプターにより近隣市町だけでなく他県からの搬送もあります。



産科病棟ではMFICUの後方病床として、ハイリスク期を経過した方が移られ、長期入院生活をされている方への継続したケアと指導が行われます。正常産褥婦と新生児については

母児同室により育児技能習得への指導・援助も行っていますが、状況を見ながら赤ちゃんを預かり、24時間の同室に進めることで、退院後の日常生活が困らないよう援助しています。産科の個室においては、他にNICUやGCUからの母子入院を受け入れ、退院前の育児・母乳相談や児への服薬・入浴方法など日常生活の具体的な援助を実施し、赤ちゃんとお過ごしすることで退院後の不安の軽減に努めています。

そして、産科病棟・MFICUが協力してパパママ教室に取り組んでいます。妊娠初期が月1回、妊娠後期は里帰りの方達も参加し実技も行うため月2回実施しています。また産後の教室では、生後4～8か月の赤ちゃんとお両親（祖父母も）を対象に、管理栄養士による離乳食相談や、小児科医師による日常生活の注意点や疾患・予防接種などの指導も行い、不安な産後の育児に役立てていただけるよう頑張っています。

退院後は母乳外来や2週間健診で産後のお母さんと赤ちゃんの見守りを行っています。特に社会的ハイリスクの方は、早期から地域医療連携室を通し、地域担当の方に連絡を取り継続してフォローしています。

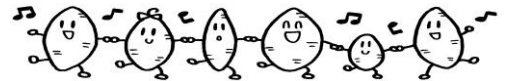
産科部門では幸せな出産ばかりではなく、流産・死産などグリーフケアや不妊外来にも関わっており、対象者の心身のケアが求められているため、相手に寄り添い慈しむ気持ちを常に持ちながら勤務しているのが当院のスタッフ達なのです。



（報告：四国子どもとおとなの医療センター 産科病棟 看護師長 柳原育子）



# 《妊娠出産サポート相談実施報告》



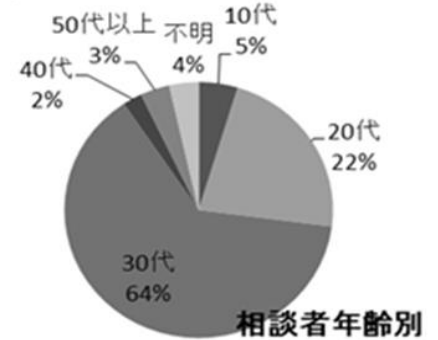
平成より香川県委託事業として開始された妊娠出産サポート相談事業における相談件数・相談内容などを一部ではありますが報告いたします。

開始当初に比べ相談件数は増えてきており、相談内容も多岐に渡ります。県内外だけでなく海外からも相談を受け、メール相談も少しずつ浸透してきているようです

	4月	5月	6月	7月	8月
電話相談	76	93	93	70	81
メール相談	0	0	1	3	4
来所相談	0	0	0	0	0
合計	76	93	94	73	85

## ～8月分相談内容の内訳～

項目	件数	項目	件数	項目	件数	
妊婦の健康状態	33	性感染症、AIDS	1	育児	52	
妊婦の仕事・環境	0	避妊	0	母乳	48	
不妊	1	望まない妊娠等	3	周囲との人間関係	2	
喫煙・アルコール	0	人工妊娠中絶	3	夫、家族のこと	4	
薬物	3	胎児・乳児の疾患	22	乳房管理について	13	
メンタルケア	5	費用	0	その他	13	
					計	202



(注) 相談項目が複数の場合は、それぞれ該当するものをカウントする。

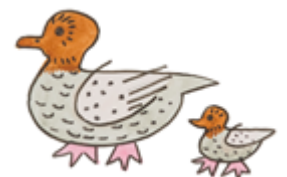
## 10・11・12月 研修・行事の予定

開催日	ポイント	研修会・行事	講師	場所
10/4 (日)		かがわ育児の日フェスティバル		さぬきこどもの国
10/4 (日)	ラダーⅢ	インターネット配信研修 (※下記参照)		助産師会事務所
10/16・17		第56回 日本母性衛生学会 総会・学術集会 つないでいこう未来への母性医療～イーハトーブからのメッセージ～		いわて県民情報交流センター
10/18 (日)		プライマリケア医療・発達障害対応力向上研修会 主催：香川県小児科医会・香川県医師会・香川県 (参加無料・要申込)		ホテルパールガーデン
10/31 (土)		子育て支援フォーラム IN 香川 (参加無料・要申込) 子育ての応援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して		JRホテルクレメント高松
11/3 (祝)		いいお産の日 (高松) いいお産 みんなで子育て～あなたのそばに助産師がいます～		高松テルサ
11/8 (日)		いいお産の日 (丸亀) いいお産 みんなで子育て～あなたのそばに助産師がいます～		丸亀市保健福祉センター (ひまわりセンター)
12/12 (土)		第16回 香川母性衛生学会学術集会 「いのちを繋ぐ」		香川県立保健医療大学 講義棟3階大会議室
12/6 (日)	研修会 一般①	乳幼児の咀嚼・嚥下	あやの歯科医院 副院長 綾野理加 (予定)	いのちの応援舎

※10月4日の研修会は都合により、日本看護協会・インターネット配信研修 (オンデマンド) に変更します。  
・子宮収縮薬使用時の助産ケアのポイント (90分) ・産科領域で役立つ! 脳神経のフィジカルアセスメント (90分)  
(受講料: 日本看護協会会員 2,052円×2講座 日本看護協会非会員 3,132円×2講座)  
日本看護協会会員の方は、会員証 (JNA会員NO, 8ケタ) をお持ちください。

### お知らせ

- ◎いいお産の日 (高松) 実行委員会 10月25日 10:00～ (いのちの応援舎)
- ◎いいお産の日 (丸亀) 実行委員会 10月24日 9:30～ (ひまわりセンター)
- ◎ほっと相談室 リーダー会 10月6日 13:00～ (助産師会事務所)



編集後記 とらうべ通信を担当して1年がたちました。皆様のご意見・ご要望をお待ちしています!!